

【研究ノート】

## 十勝本別地方におけるアイヌ口頭文芸

—特に散文説話について—

高橋 靖 以

### 0. はじめに

本稿は十勝本別地方のアイヌ口頭文芸、特に散文説話について口演の形式、主な内容等の基本的な特徴の報告をおこなうものである。アイヌ口頭文芸研究をおこなう際の前提として、各地域の口頭文芸の体系を把握しておくことは極めて重要であるといえる。同地域の口頭文芸に関してはこれまでアイヌ語テキストの記録と公刊がおこなわれてきた（浅井 1985、沢井 1995、切替 1996 など）。一方、それらに基づく口頭文芸研究はほとんどみられない。このことから、同地域の口頭文芸に関して基礎的な特徴を明らかにしておくことは有用であるといえる。

以下で用いる資料は主として筆者の十勝本別地方における言語調査の過程で得られたものである（語り手：沢井トメノ氏 1906-2006）。また、一部に文献記録を利用した（資料 4、資料 6）。

### 1. 十勝本別地方における口頭文芸の分類と名称

物語としての内容をもつものに限定すると、アイヌ口頭文芸は一般に韻文形式であるか散文形式であるか、リフレイン（折返し）の句を有するか否かによって分類される。韻文形式とは 1 行の音節数を調整しメロディーを付けて語る形式である（中川 1996 : 151）。これらの口演上の形式から、アイヌ口頭文芸は神謡（リフレインをもつ韻文）、英雄叙事詩（リフレインをもたない韻文）、散文説話（散文）の 3 種類に分類される。十勝本別地方において神謡は *matciyukar*、英雄叙事詩は *sakorpe*、散文説話は *tuytak*<sup>1</sup> とよばれる。

この他に主として内容上の観点から事実談 *ucaskoma* というジャンルを認めることができる<sup>2</sup>。事実談は口演の形式としては散文説話に類似するが比較的短く、基本的に事実に基づくと認識されている伝承である。

### 2. 散文説話の口演の形式

散文説話の口演の形式は多くの場合メロディーを伴わないものである。また、1 行の音節数の調整は意図されない。以下にテキストの例をあげる。

資料 1（1999 年記録。斜体は日本語であることを示す）：

a-kor katkemat newa a-kor ekaci, pon menoko ekaci sinep a-kor wa, otasut kotan, pon kotan, onne kotan anak otasut'unkur, *ma, ojadama*, sikkama. korkay pon otasut un kotan or en kotan sikkama kun i kus ekaci, sine ekaci a-kor wa turano, otasut kotan ar'enko pon kotan ot ta, nean kotan a-sikkama kun i kus paye-an.

「私の奥さんと私の子供、小さい女の子が一人いて、オタスツ村、小さい村、大きな村はオタスツウンクルの親玉が守っている。けれども小さいオタスツの村へ村を守るために、子供、一人の子供がいて、一緒にオタスツ村の半分の小さい村に、その村を守るために行った。」

しかしながら、テキストの一部に明確なメロディーを伴う事例も少数存在する。

**資料2**（1999年記録。メロディーが付けられている部分を下線で示す。また冒頭部分にメロディーを伴う音群が現れるが表記は省略する）：

a-nomi kamuy, ci-nomi kamuy, or wa, sonko ek a p, “e-osipi, e-osipi, (cu, cu), e-osipi hontomo, ru tomo (os), (oske ta, ru tomo oske), ru atcake ta, (toy ousi wa, toy, *cuci hotte dajo*), toy ouri wa, ot ta yaynuyna wa, etuhu patek sanke ka an tek korkay, ni ham, eyaykamure kus e-eramuskare tek e-oman cik anak, an-e-e nankon na.”

「私たちが祈る神、祈る神から知らせが来たもの、『おまえが戻る、戻る途中、道の真中、道の片側に土を掘って、そこに身を隠して鼻だけを出しているけれども、木の葉を身体に被せているので、おまえが知らないで行くと食べられてしまうだろう。』

これらの事例から、十勝地方における散文説話の口演の形式はメロディーの有無に関する限り必ずしも一定しない場合があるといえる<sup>3</sup>。

なお、中川（1996：157）は各地のデータに基づき、現在散文説話とされる *tuytak* が本来韻文形式と散文形式の両方を併せ持ったものであった可能性を指摘している。十勝本別地方における散文説話 *tuytak* の口演形式の特徴は、メロディーを有する場合があるという点で中川（1996）の推定を部分的に支持するものである可能性がある。

### 3. 散文説話の内容的特徴

#### 3.1 主人公に関する特徴

散文説話の物語の主人公に関しては、無名である事例と固有の名称を持つ事例がみられる。主人公が固有の名称をもつ場合については *otasut'unkur* と *poncupkaunkur* という名称が現時点で確認されている。

物語の主人公が無名である事例は散文説話において比較的多数みられる。以下の例において、物語内の登場人物である「私」の正体はテキストの中で明らかにされていない<sup>4</sup>。

**資料3**（高橋 2006 を要約して示す）：

私は山に行った帰りに熊に追跡された。川の近くまで下っていったところ、流木が見えたので、流木を利用して対岸に飛び移った。熊も私の後を追って飛び移ろうとしたが、川の中に落ちて流されていった。そして私は無事に家に帰ることができた。

次に *otasut'unkur* という名称をもつ存在が主人公となる散文説話も多数みられる<sup>5</sup>。この場合 *otasut'unkur* は基本的に特異な能力を有する存在として描写される。なお、*otasut'unkur* は英雄叙事詩の主人公の名称としても用いられる。

**資料4**（切替 1996 を要約して示す）：

私は小母に育てられていた。ある時小父とともに交易に出かけたが、途中の岩島に置き去りにされた。私は岩島を引いて泳ぎ、津波を起こして和人の村を半ば壊滅させた。その後交易品を積んで家に帰り小母と再会した。ある日小母は自らは水の神であること、私を育てていた経緯を話し天へ去っていった。その後私は結婚し子供にも恵まれた。私

の身の上に起こったことを話して聞かせ、私はこの世を去った。

poncupkaunkur という名称をもつ存在が主人公となる散文説話は少数である（現在のところ以下の1例の物語のみ）。このponcupkaunkurはotasut'unkurと異なり超人的な性格をもつものとして描写されていない。

**資料5**（1999年記録。アイヌ語原文の内容を要約して示す。なお北海道教育庁社会教育部文化課編1987に同じ内容の物語が記録されている）：

私は妻と娘と暮らしていた。ある年に山で小熊を捕まえ育てていた。夏になったある日、小熊は今日悪い熊がこの家を襲いに来るということを私たちに話した。私たちは家から逃げて柏の木の洞に隠れ難を逃れた。家に戻ると小熊は無惨にも殺されていた。私たちは小熊のために盛大な祈りの儀式をおこなった。その夜小熊の神が夢に現れ私たちに感謝の意を述べた。私たちは目が覚めるとまた小熊の神に祈りをささげた。

### 3.2 散文説話と英雄叙事詩

一部の散文説話には内容の点で英雄叙事詩との関連を指摘することができる。以下の散文説話の例においては、英雄叙事詩の基本的特徴である主人公の超人的性格や戦闘の描写などがみられる。

**資料6**（北海道教育庁社会教育部文化課編1987を要約して示す。なおこの物語の主人公はotasut'unkur turesihi（オタスウUNKルの妹）であるとされる（1999年聴取））：

私はオタスウの村で戦いがおこなわれていることを夢で知った。起き上がって外に出ると鶴がオタスウの村へ飛んでいくのが見えた。私は戦いの装束を身につけ雲に乗り、オタスウの村に向かった。オタスウの村に着いて草を刈るように敵を斬り殺し、オタスウの村を救うことができた。

**資料7**（1999年記録。原文の内容を要約して示す）：

私は帰り道に悪神が待ち伏せしていることを守護神からの伝言で知った。私は別の道を通って家に帰り、その後で悪神が待ち伏せしているところへ出かけ悪神を殺した。悪神なので丁寧な祈りの儀式はおこなわなかった、とオタスウUNKルが語った。

中川（1997：248）は北海道南西部地方において散文化された英雄叙事詩（ユカナルパイェ、ユカライルパイェなどの名称をもつ）と散文説話（ウエペケレという名称をもつ）の間には明確な名称の区別が存在し、英雄叙事詩と散文説話は内容の上で本質的な差異が認められていると述べている。一方、現在得られているデータに基づけば、十勝本別地方においては散文化された英雄叙事詩と散文説話の名称上の区別は存在しない可能性が高い<sup>6</sup>（ともに散文説話tuytakとみなされると推測される）。散文説話と英雄叙事詩の関係については地域的な差異の分析が必要といえる。

### 3.3 散文説話と事実談

一部の散文説話には事実談との区別が不明確なものがみられる。これは散文説話と事実談

の区別が主として語られる内容に関するものであることが原因であると考えられる。以下の例は散文説話であるか事実談であるか語り手の認識が一定しない事例である<sup>7</sup>。

**資料 8** (高橋 2007 を要約して示す) :

ある年に冷夏があって、作物も山にある食べ物もとることができなかった。老人たちは川に下りて神に祈ったが、全く暖かくならならず、魚も遡上しない。秋になった頃、一人の老婦人と老人が次のように言った。『もう秋になって、どうしようもない。そこで、ヤナギの葉を集めて流して、海まで流れるようにすれば、海の神がどうか考えるだろう』という夢を見た。ヤナギの葉を集めて流しなさい。」その通りにして、十日ほどたつと、シシャモという魚が上がってきた。そしてその魚を乾燥させたり焼いたりして、どうか冬を乗り切ることができた。

#### 4. おわりに

本稿では主として言語調査のなかでえられた資料に基づき、十勝本別地方の散文説話について口演の形式、主な内容などの報告をおこなった。さらに散文説話と英雄叙事詩、散文説話と事実談の関連について観察の結果を述べた。他のジャンルの口頭文芸や他地域との詳細な比較分析に関しては今後の課題としたい。

#### 注

1. この形式は[tсутak]に近く発音されることが多く、他の音韻論的解釈(例えば/cuytak/)が妥当である可能性もある。
2. *tuytak ne haw ne ya ucaskoma ne haw ne ya an-eramuskare* 「(この伝承は) 散文説話であるのか事実談であるのかわからない」という表現(沢井氏による)などからも両者は対立するジャンルとして認識されていることが伺える。
3. また、本別地方と方言的共通性が高い帯広地方において、節を付けて語られる散文説話の存在が報告されている(北海道教育庁社会教育部文化課編 1981 : 80-84)。
4. 一般に散文説話においては、語り手自身とは異なる物語内の登場人物の視点から物語が展開される。また、散文説話の一部には事実談との区別が不明確なものがみられるが(3.3 参照)、資料 3 は事実談とは明確に区別される事例とみてよいようである。
5. *otasut`unkur turesihi* (オタスウソウの妹) などオタスウの女性が主人公になる事例もみられる(浅井 1985, 資料 6)。
6. また、北海道教育庁社会教育部文化課編(1994 : 8)によれば、釧路地方においても名称上の区別はみられない可能性がある。
7. 沢井(1995 : 70)に同様の事例が紹介されている。また注 2 を参照。

#### 付記

本稿で取り上げたさまざまな物語を語ってくださった故沢井トメノ氏に深く感謝申し上げます。なお本稿は北海道民族学会 2008 年度第 2 回研究会(2008 年 12 月 7 日)での口頭発表に基づくものである。その際御意見を頂いた諸先生方に厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

浅井 亨

1985 「カンナカムイの話」アイヌ無形文化伝承保存会編『アイヌの民話』2: 191-243. アイヌ無形文化伝承保存会。

北海道教育庁社会教育部文化課編

1981 『昭和 55 年度アイヌ民俗文化財緊急調査報告書(無形民俗文化財 6)』北海道教育委員会。

1987『昭和 61 年度アイヌ民俗文化財調査報告書 (アイヌ民俗調査VI)』北海道教育委員会.

1994『八重九郎の伝承』2. 北海道教育委員会.

切替英雄

1996「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法 (1)」『北海学園大学学園論集』88 : 123-286.

中川 裕

1996「アイヌ物語文学ジャンル名の分布と歴史」言語学林 1995-1996 編集委員会編『言語学林 1995-1996』151-163. 三省堂.

1997「散文説話」久保田淳他編『岩波講座日本文学史』17 : 246-263. 岩波書店.

沢井春美

1995「沢井トメノさんが語るツッポククシペツ“cuppokkuspet”」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1 : 51-78.

高橋靖以

2006「アイヌ語十勝方言テキスト：クマの追跡を逃れた話」『北海道民族学』2 : 50-54.

2007「アイヌ語十勝方言テキスト：『ヤナギの神』と『ヨタカ』」津曲敏郎編『環北太平洋の言語』14 : 57-64. 北海道大学大学院文学研究科.

(たかはし・やすしげ／北海道大学大学院文学研究科 専門研究員)